

市民ボランティアによる防犯パトロールの抑止効果について語る岡正憲・生活安全部長＝県警本部



県警の「安全安心くまもと実現計画」の取り組みや各部の課題を聞くインタビュー。最終回は岡正憲・生活安全部長。（高橋俊啓）

「県内の昨年の犯罪認知は1万4928件。8年連続で減少し、2003年のピーク時から半減しました。要因をどう考えますか。」

「一番変わったのは防犯ボランティアの数だ。現在、661組織約5万人が児童

の見守りや街頭パトロールで活動している。03年の約10倍。警察だけでなく、一般市民のボランティア活動が犯罪抑止に寄与したと思う」

「今後、さらに件数を減らせますか。」

「例えば、自転車盗難や車上狙いの被害では、無施錠のケースが多い。県民の防犯意識を高めることで、確実に減らせるはずだ。それには警察の情報提供が必

要。ボランティア団体の力も借りて取り組みたい」

安全安心くまもと実現計画 ④生活安全部

ボランティア 防犯に一役

「昨年12月、千葉や長崎でストーカー被害に対する警察の不手際があり、殺人事件に発展しました。県警はどう対応しますか。」

「ストーカー被害に迅速に対応するため、相談内容の緊急性や危険度を数値化する新しいチェック票を4月から導入した。だれが相

※（ ）内は対前週比
「」内は対前年同期比

5・14 ー 5・20	先週の刑法犯認知件数(速報値)			
	週計	286 (-1)	累計	5,053 [-75]
	先週の交通事故(速報値)			
		発生件数	死者数	負傷者数
	週計	216 (33)	5 (5)	273 (29)
	累計	3,441 [-440]	33 [4]	4,341 [-667]

談を受けても対応ミスが起きないようにするためだ。ただ、最も重要なのは被害者がなぜ警察に相談してきただのかを、警察官一人一人が考え、心のこもった対応をすることだ」

「今年、サイバー捜査員を7人増員しました。」

「インターネットは世界中の人が利用する公共空間だが、残念ながらフィッシング詐欺や不正アクセス、銃器の売買など、ネットを利用した犯罪が横行している。違法有害情報の削除とともに、全国の警察と協力して徹底して摘発し、サイト管理者の責任も追及していきたい」

守ろう!!
安全安心
くまもと2012

2012.5.23